

病児保育だより

アメニティホーム広畑学園 病児保育通信 NO. 28

R7年 夏号

梅雨が明け、毎日 30℃を超える猛暑日がやってきました。今回のテーマは「夏に流行する病気」と「食中毒予防」です。夏は家族旅行などの楽しいイベントも多いかと思います。ご家族の体調管理に参考になれば幸いです。

三大夏風邪ごとの症状

手足口病



- ・手や足、口の中に水疱性の発疹
- ・3割位に 38 度以下の熱が出ることも

*発疹がかさぶたの状態になれば
登園・登校可能

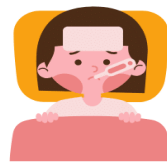
ヘルパンギーナ



- ・突然の高熱
- ・のど周辺に水ぶくれ

*症状が改善して医師の判断で登園・登校可能

プール熱



- ・高熱が数日続く
- ・目の充血や目やに

*解熱後 2 日たち、症状が改善したら登園・登校可能

今年の夏に流行りそうな感染症

溶連菌感染症

☆処方通り抗生物質は飲み切る



・イチゴ舌



・体幹・手足に
痒みのある発疹



・発熱・嘔吐
のどの痛み

*抗生物質を飲んで 24 時間後かつ
症状が改善したら登園・登校可能

伝染性紅斑（リンゴ病）

・ほっぺが赤くなった後に
腕、太ももにレース状の発疹が出る



・発疹が現れた時点で感染力は無くなっている

*頬が赤くても症状が改善したら登園・登校可能

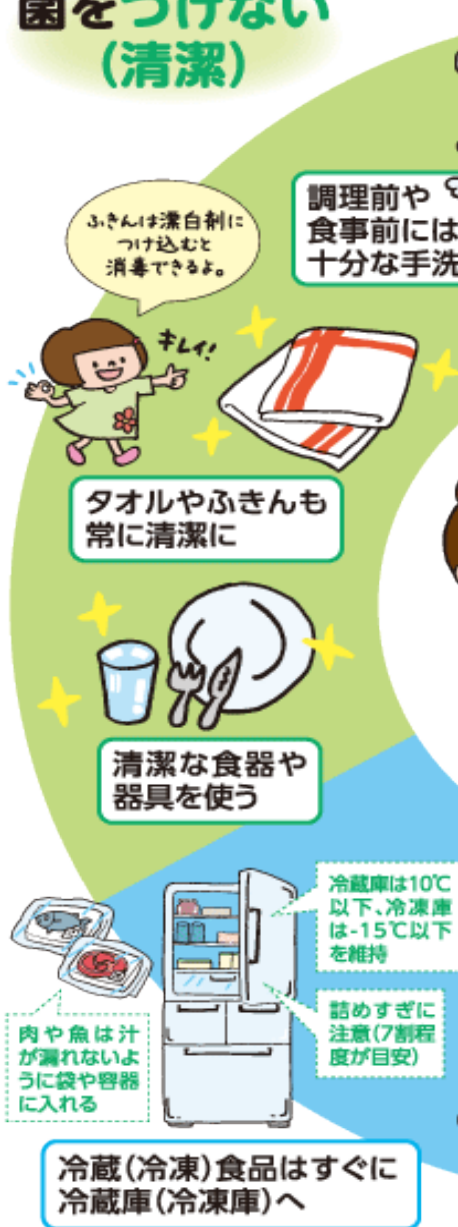
予防対策とアドバイス

- ・飛沫感染、接触感染の予防のため、こまめに手洗い消毒、マスク装着、うがいをしましょう。
- ・家族間でタオルの共用はせず、ペーパータオルを使いましょう。
- ・症状が改善しても 2～3 週間は排泄物からの感染の恐れがあるため、おむつ交換後は手洗い消毒を！
- ☆夏の感染症は、気温が高いため食欲が低下し、脱水症状をきたす可能性が高いので、こまめな水分補給と栄養補給が大切です。口腔内の痛みで食べられなくなったら、早めの病院受診をお勧めします。

食中毒予防の3原則

食中毒菌を「付けない、増やさない、やっつける」

菌をつけない (清潔)



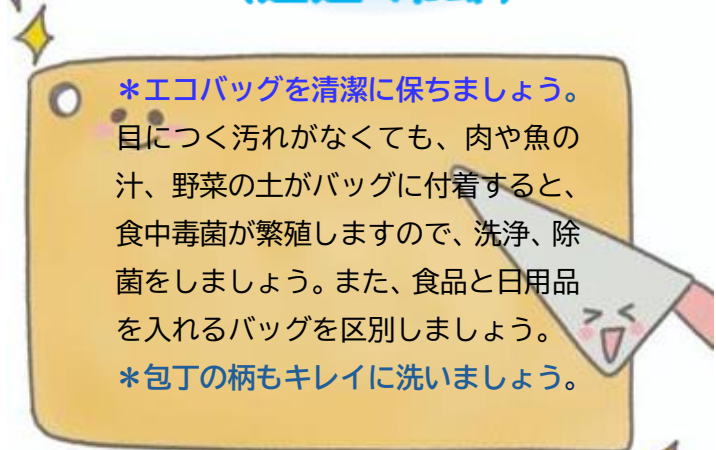
菌をやっつける (加熱・殺菌)



夏場の食中毒に 気をつけましょう!



菌をふやさない (迅速・冷却)



★家庭でできる応急処置

食中毒の症状は嘔吐・下痢・腹痛・発熱です。
体内に入ってしまった細菌を殺す薬はなく、体内に入った菌が外に出るのを待つしかありません。

- ① 水分補給：経口補水液がおすすめです。
- ② 吐きやすい体勢にする：吐いたものが喉に詰まらないよう、身体を横向きにして寝かせます。
- ③ 栄養をとる：症状が落ちついてきたら、おかゆやうどんなど消化にいいもので栄養補給をしましょう。バナナやりんごもおすすめです。

奈良県公式 HP より

※病児保育利用時間は8時～18時(日曜・祝日・年末年始は休み)

予約・キャンセル時間は7時～19時まで ☎079-236-1630